

## 平成 23 年度 第 2 回内灘町地球温暖化対策地域協議会 議事録

1. 日 時 平成 23 年 11 月 24 日（木） 11 時 00 分～15 時 00 分
2. 場 所 福井県池田町
3. 出席者 委員 7 名  
早川会長、多田委員、表井委員、西田委員、関委員、橋本委員、大笹委員  
事務局 4 名  
町民福祉部 川口部長、北川環境政策課長、田中副参事、南主事  
他 9 名  
おいCまち内灘（循環型まちづくり取組み団体）、産業振興課 喜多課長補佐

### 4. 内容

今回の協議会では福井県池田町を視察した。池田町は生ゴミ堆肥化や資源循環型農業の先進地であり、平成 17 年度にはそれらの取り組みが評価され、自治体環境グランプリ・環境大臣賞に選ばれている。当協議会が策定した地球温暖化対策実行計画の基本方針の中では、ごみの減量化の促進と町の資源の有効活用の推進が掲げられており、池田町の取り組みを学ぶことで、今後の計画を実行していくことの参考になると考えられる。

#### (1) 開会（会長）

#### (2) 事項

##### ①池田町の取り組み紹介（説明：池田町役場総務政策課、場所：池田町役場）

主に以下の内容について説明。

##### ・池田町環境向上基本計画

一般町民 100 人でつくった「100 人のパートナー会議」で、今までのように行政主導の計画づくりでなく、住民自身が「ふるさとの環境をいかに守り伝えるか」をみんなで話し合ってきた住民主体のプランを基に平成 15 年に策定された計画。

##### ・食Uターン事業

家庭の生ごみを「資源」と位置づけ、牛糞ともみがらをまぜて品質の良い堆肥づくりによみがえらせる事業。各家庭では水切りや分別を徹底し、指定紙袋に入れられた生ごみを、町民で構成する NPO 法人環境 U フレンズがトラックで回収し処理施設に搬入している。

##### ・エコポイント事業

レジ袋持参や環境関係のイベントに参加するなどの環境行動を行った際にエコポイントが加算され、10 ポイント集めると 100 円の商品券として協賛店で使える。環境と経済の相乗効果を目指す事業。

- ・生ごみ堆肥を活用した農産物販売

池田町のアンテナショップ「こっぼいや」を平成11年に福井市内の大型量販店内にオープンし、農産物の販売を行っている。少量多品目を販売戦略に、兼業農家の主婦たちがつくる農産物を商品化している。

- ・資源循環型農業（ゆうき・げんき正直農業）

減農薬、無農薬で栽培することで農産物の付加価値向上を図る事業。

## ②生ごみ堆肥化施設の紹介（説明：池田町農林公社、場所：生ごみ肥化施設）

生ごみ堆肥化施設「あぐりパワーアップセンター」の現地説明。

### 【質疑応答】

#### Q（委員）

各事業を推進するために住民の意識醸成・啓発をどのように進められたのか。

#### A（池田町役場総務政策課）

生ごみの堆肥化は環境に良いという理由から始まったのではなく、町に住む人にとって必要なこととして始まりました。H11年に町内の家庭で作りすぎた野菜を集めてこっぼい屋で売りに出しました。こっぼい屋で出した野菜が「身体に良い」、「おいしい」と喜ばれ、評価いただいたことにお応えするかたちで始めたのがH12年の有機・げんき認証制度（ゆうき・げんき正直農業）です。有機・元気正直農業を始めたことで有機肥料が町内で必要になりました。この状況に応えるかたちで始めたのが生ごみの回収による堆肥化です。これが平成14年です。生ごみの分別・回収については役場の職員がチーム（班体制）を組んで町内の各集落を回って説明することで理解していただきました。有機農業・生ごみの堆肥化を通じて地域への環境向上への関心が高まってきました。

#### Q（委員）

「食Uターン事業」に対する町民の皆さんの関心は以前とどのように変化したか。

#### A（池田町役場総務政策課）

事業は町民に定着してきました。農林水産大臣賞や環境グランプリ、視察研修などにより町外から評価をいただくことも多く、生ごみ回収について誇りを持っておられる方も増えてきました。

※質疑応答は主なものを掲載

### (3) 閉会（事務局）

以上